

クマによる人身被害調査報告書①

事故概要		商業施設内の敷地内で男性2名がクマに襲われ負傷
発生日	日時	令和7年10月7日 午後7時30分頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	沼田市恩田町
	環境	商業施設等の店舗内、駐車場
	山／里の別	里
被害者（1）	年代・性別	69歳男性
	被害状況	軽傷（右上腕にひつかき傷あり出血なし）
被害者（2）	年代・性別	76歳男性
	被害状況	軽傷（軽傷と思われるが詳細不明、両腕上腕部に服ににじむほどの出血あり）
加害個体	頭数	1頭
	大きさ等	体長約1.4m
事故状況		<p>被害者（1）がフレッセイ沼田恩田店の出入口近くに停めた車から降り、出入口に向かったところ、クマが前足をリサイクルボックスについて立っている姿を見つけて驚いて声を上げたところで、右上腕を引っかかけた。その後、クマは出入口の自動ドアから店内に侵入。</p> <p>店内を入って正面にある陳列棚にクマが立ち止まっているのを、被害者（2）が発見して大声を出し、踵を返して走って逃げようとしたところ、クマが背中に覆いかぶさり、負傷。</p>
事故の原因・考察		<p>事故は住宅・工場・商業施設が混在する地域で発生した。周辺の利根川河川敷は藪が多く、大型獣の移動経路や潜伏場所になっており、加害クマは人目を避けて藪を利用して移動した可能性が高い。店舗側では、クマが常時生息する地域ではないため、屋外リサイクルボックスなどの野生動物対策が取られておらず、これが誘引要因の一つと考えられる。また、パニックになったクマは恐怖心から暗い場所や狭い場所など、身を隠すことができる場所に逃げ込む習性がある。このため、店舗内に侵入した可能性がある。被害者はクマと至近距離で遭遇後、大声を出して逃げようとしたため、逃げる獲物を追うという、野生動物の本能を刺激してしまったのではないか</p>

	と考えられる。
考えられる改善点	<p>(住民側の対策)</p> <p>○正しい対処方法の習得 クマと至近距離で遭遇した際は、大声を出して逃げるのではなく、静かに後退し安全な場所へ避難する方法を学ぶ機会を設ける。</p> <p>○誘引物の管理 自宅周辺の不要果樹（力キ・クリなど）やゴミを適切に管理し、クマを引き寄せないようにする。</p> <p>○情報収集と周知 メーリングリストや広報車などを活用し、クマ出没情報や対策を住民に普及する。</p> <p>(店舗側の対策)</p> <p>○自動ドア・ガラス対策 クマ出没時は自動ドアを手動に切り替え、施錠対応を行う。ガラス下部に色を付けて侵入抑制を図る。</p> <p>○誘引物管理 屋外のリサイクルボックスやゴミ箱を撤去し、店内や施錠可能な場所で管理する。</p> <p>○侵入時の対応訓練 防犯マニュアルを整備し、定期的な訓練を実施する。</p> <p>○平常時からの情報収集 クマ出没マップや警察・市町村の情報を確認し、状況に応じた対策を講じる。</p> <p>(行政側の対策)</p> <p>○加害個体の早期捕獲 周辺の河川敷等の藪等に滞在している可能性があり、同様の被害が起こる可能性があるため、早期捕獲を実施する。</p> <p>○河川敷藪の刈り払い 利根川河川敷の藪は大型獣の移動経路や生息場所となっており、これらの藪の伐採により、大型獣の移動経路を遮断できるため、河川管理者と協議し伐採を進める。</p>

	<p>○広報活動の強化 市からの安全管理情報に係るメール発信に加え、広報車で直接住民に情報を伝える取り組みはメールが使えない方にも有効である。</p> <p>○誘引物管理の普及啓発 果樹やゴミなどの管理方法を住民に周知する。</p> <p>○県と市町村の連携強化 捕獲許可事務などの役割を明確化し、専門家の支援を得ながら体制を構築する。</p>
--	--